

第4回 感想文

新型コロナウイルスの全体像に近づけた

西宮市 伊賀 幹二

2回連続での黒田先生のお話から、新型コロナウイルス感染の臨床像を少しは理解できた気がした。

病態は、ウイルス量が増大する時期とサイトカインストームからなる2つの山で形成される。ウイルス量が感染時期により変化することから、1)PCR施行時のCT値で患者ごとのウイルス量の比較は採取時期を明確に規定できないので意味がないこと、2)肺炎によるICU治療下の患者からより、病初期であるためウイルス量が多い救急外来や発熱患者がない診療所での感染リスクが大きいことを教わった。発熱患者を受け入れていない診療所であっても、いつも基本的な感染対策が必要であるということを理解できた。

ワクチンについては、RNAを体に注入するとことから副作用を気にしている、私自身は受けないつもりでいる。

黒田先生自身もワクチン接種に関するれば、アメリカでのワクチン摂取後の大規模なデータを見て決めたいとのことであった。ただ、副作用に關すれば長期で見ると必要があるので、短期的なアメリカでのワクチン結果を見ても判断できないように思った。

無症状で酸素飽和度が92%以上なら入院適応なしと判断され、ホテルに移動される。その人たちのうち、急変して神戸市立中央病院を転送された人もいたことであった。このことは定義にもよるが、医療崩壊がすでに生じているといっても過言ではないのだろうか？

今後、発熱患者に対してPCR検査を施行するかどうかの判断因子として、誰と同居してどんな仕事をしているのかということが重要であるということであった。高齢者に感染を広げないことやクラスターを防ぐために、理にかなうことであると納得できた。

2回に及んだ黒田先生のお話は、重症例を診ている病院という窓を通したものであった。無症状で酸素飽和度が92%以下の何%が急変し入院されたのだろうか？そして、それはごく一部ののだろうか？PCR陽性者が多く収容されるホテルの責任者はどのように感じているのだろうか？

新型コロナウイルスの全体像に少しでも近づくために、一般の夜間救急外来という窓や介護現場という窓から見た新型コロナウイルス感染状況の議論も今後開催していきたいと思う。

ラジオ関西「医療知ろう！」に伊賀幹二先生が出演
感度と陽性的中率を混同していませんか？

ラジオ関西番組「寺谷一紀と！い・しょく・じゅう！」内の協会提供コーナー「医療知ろう」に11月26日、副支部長の伊賀幹二先生（西宮市）が「PCR検査の感度と陽性的中率について」をテーマに出演。感度とは？、陽性的中率とは？を例を示しながら、説明した。

当日の様子は協会ホームページ (http://www.hhk.jp/topics/2020/1006-090000.php) からご覧いただけます。



「PCR検査の感度と陽性的中率について」説明する伊賀幹二先生(右端)



ラジオでは、新型コロナウイルス関連に限らず、幅広いテーマで出演いただける先生を募集中。ご出演希望の先生は、☎078-393-1801 (事務局山田、難波) まで

聴く、医療。 医療知ろう! おとくすり手帳 プオカード プレゼント

兵庫県保険医協会の開業医が、ラジオ番組「寺谷一紀と！い・しょく・じゅう！」「医療知ろう！」コーナーで「新型コロナウイルスはこれからどうなるの?」「インプラント治療ってなに?」など身近な医療に関する疑問にお答えします。毎週木曜日夜7時25分ごろからは、ラジオ関西 (AM558KHz) をぜひお聞きください。

聴く、医療。 医療知ろう!

毎週木曜日 / PM6:00~8:00
コーナー / PM7:25~7:35頃
放送期間 / 2020年10月~2021年3月

ラジオ関西 AM558 FM91.1 AM 558KHz. / 1395KHz. (県北部) / FM91.1MHz.

支部オンライン忘年会開催



12月26日(土)午後7時より初めての試みとして支部オンライン忘年会を開催した。2020年はコロナウイルスの感染が広がり支部行事の開催が困難であったが、コロナウイルス感染症研究会をシリーズ化して企画できたことは大きな成果となった。引き続き、支部会員の要望に添った支部活動に取り組みとともに、支部創立40年となる2021年は、より充実した企画が開催できるよう努めることを確認した。

また、支部企画の講師をお願いしているロバート・コンロイ先生、鶴飼先生にも参加いただき、近況を報告いただいた。

2021年は支部役員全員で集まり、忘年会ができればと願ひ、終会となった。